

令和7年8月30日 群馬県高崎市
第31回全国医師会共同利用施設総会

地域に根ざした医師会共同利用施設のあり方
～2040年問題が及ぼす影響と対策～

大分市医師会立アルメイダ病院の現況と
今後いかに“治し支える医療”を展開するか

大分県医師会副会長
大分市医師会副会長
石和 俊

大分県



県の鳥：メジロ



県の花・木：豊後梅

面積	6,340km ²
人口 (2024年)	1,092,278人
人口密度(2024年)	171人/km ²
出生(2023年)	6,259人
死亡(2023年)	16,756人
自然増減(2023年)	▲10,497人
高齢化	34%

(大分市29%～姫島村60%)



大分県18市町村(2023年)

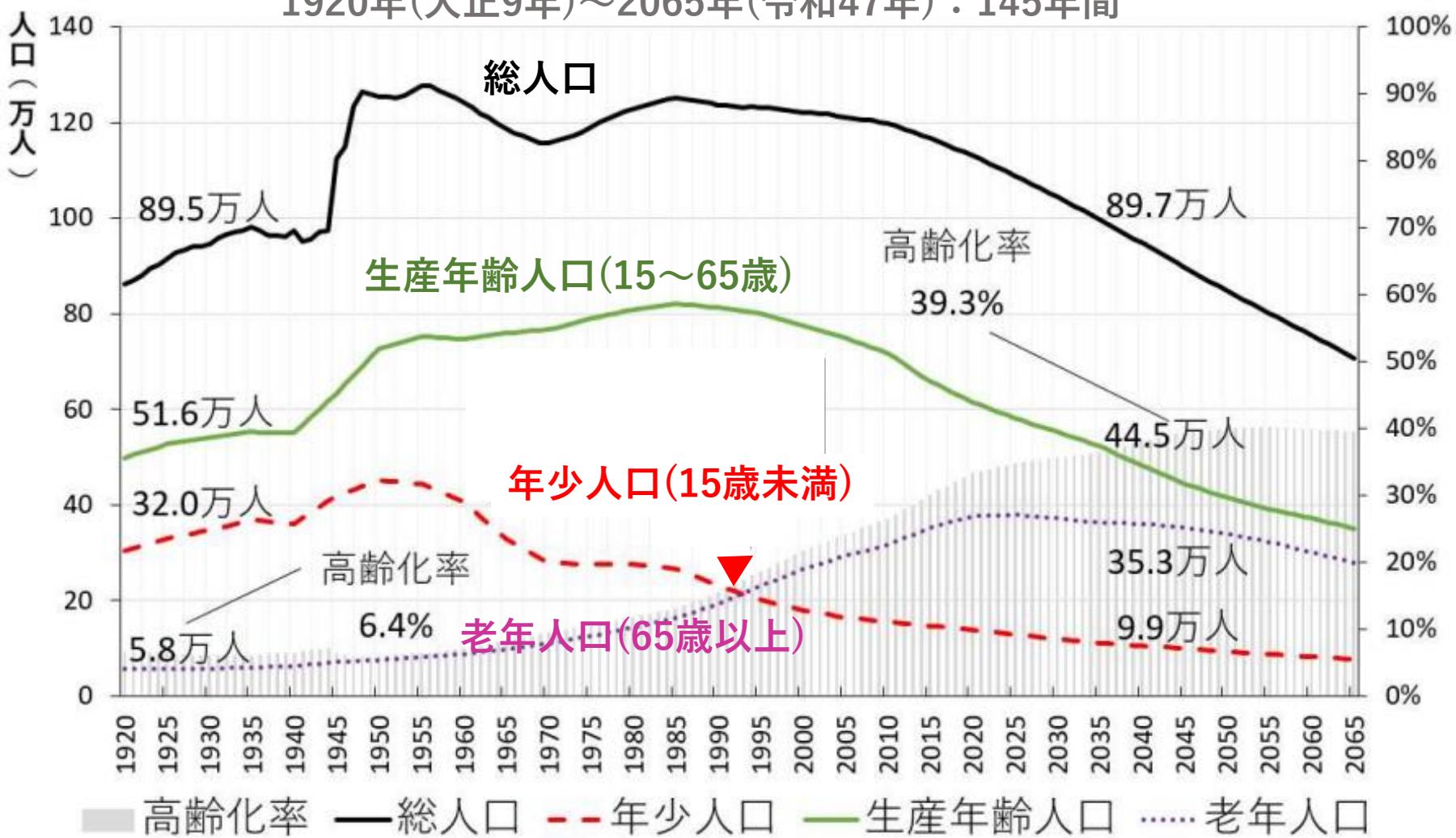
	人口	医師会病院
1 大分市	47 万	アルメイダ病院(406床)
2 別府市	11 万	
3 中津市	8 万	
4 佐伯市	6.1万	
5 日田市	5.9万	
6 宇佐市	5.2万	宇佐高田市医師会病院(108床)
7 白杵市	3.3万	コスモス病院(180床)
8 由布市	3.2万	
9 豊後大野市	3.1万	
10 日出町	2.7万	
11 杵築市	2.6万	
12 国東市	2.4万	
13 豊後高田市	2.2万	
14 竹田市	1.8万	竹田医師会病院(156床)
15 津久見市	1.4万	津久見中央病院(120床)
16 玖珠町	1.3万	
17 九重町	7700人	
18 姪島村	1500人	

大分県・大分市人口予想

自然動態 / 社会動態

年齢3区分別人口の推移（大分県）

1920年(大正9年)～2065年(令和47年)：145年間



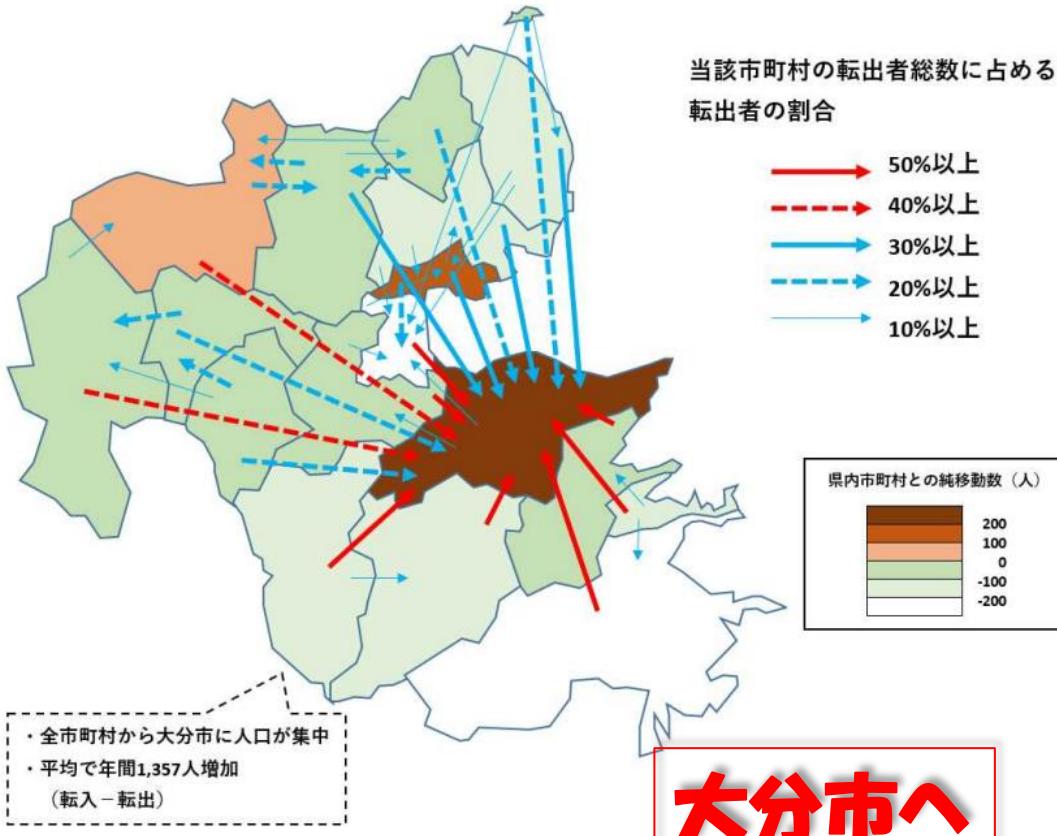
資料：「人口動向分析・将来人口推計のための基礎データ等(令和元年6月版)」
内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局より提供

大分県人口ビジョン 2020年

社会動態

社会減：1961(昭和36)年の約2万人が最大で
令和では2千人～3千人

県内市町村との純移動者数と転出者の割合（2016～2018年平均）

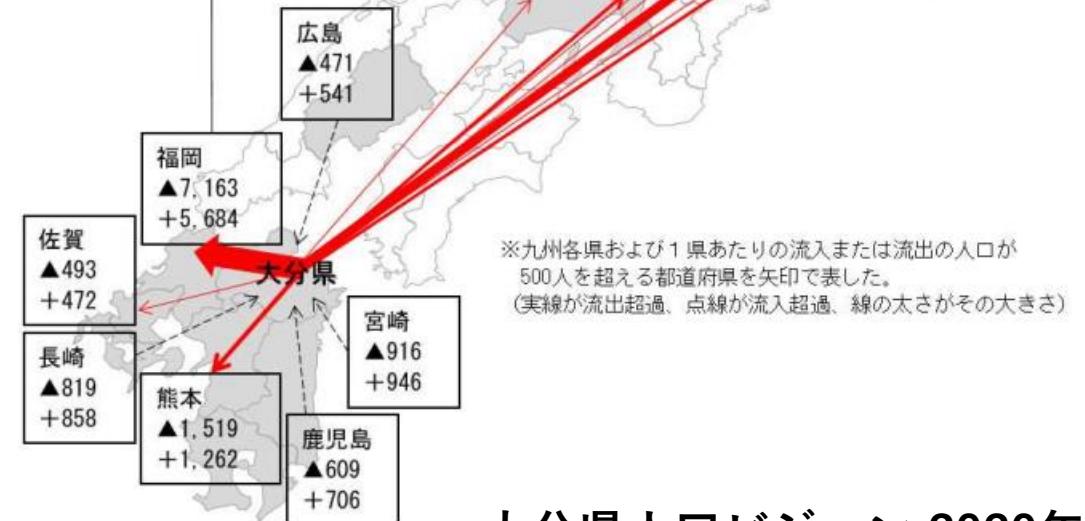


資料：大分県人口推計年報(第12表 市町村間の転入・転出者数(2016～2018年平均))

大分県と他県の人口移動の状況(2018年)

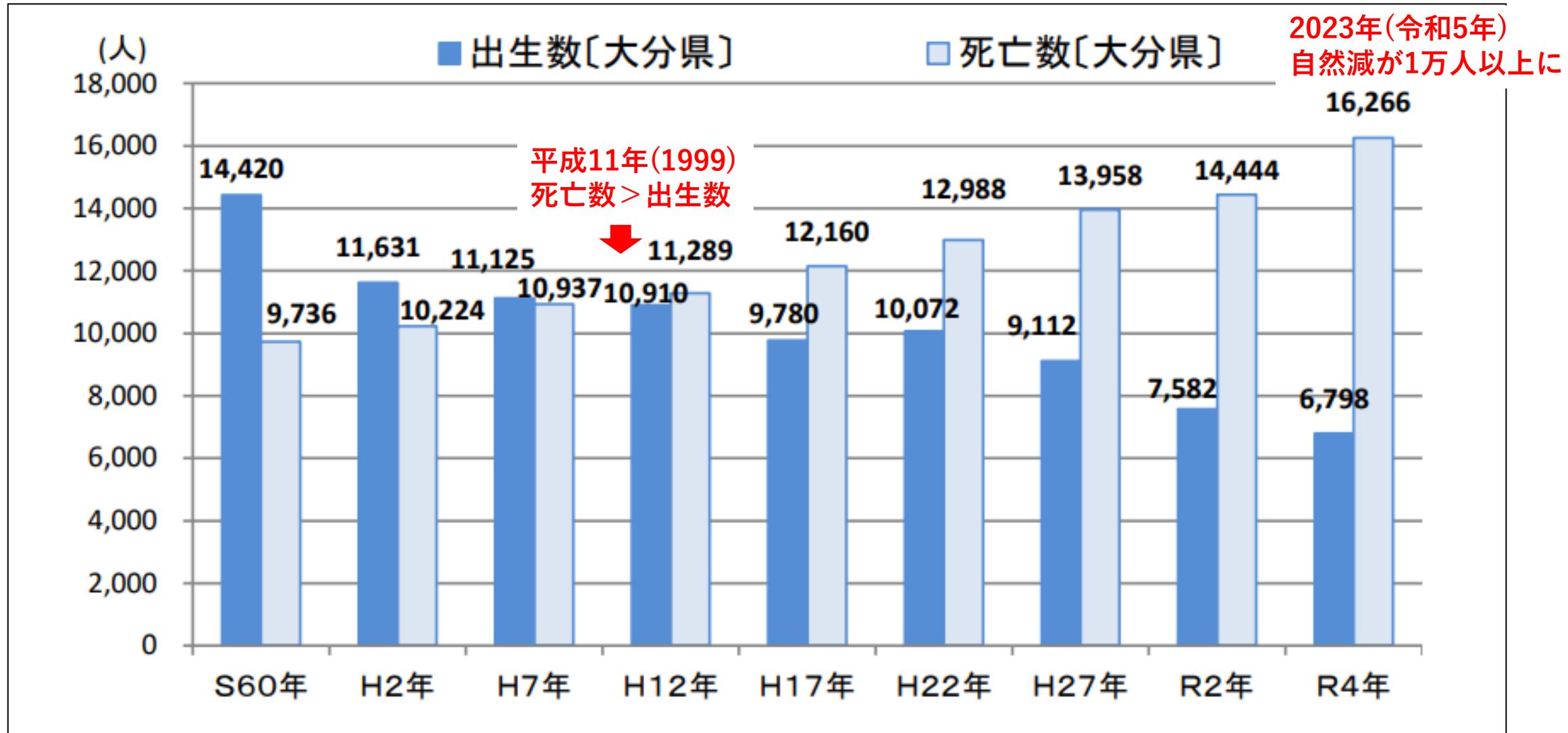
福岡・東京へ

(福岡県の場合)
大分県から7,163人が転出、
福岡県から5,684人が転入している。



大分県人口ビジョン 2020年

大分県の出生数と死亡数の推移（自然動態）



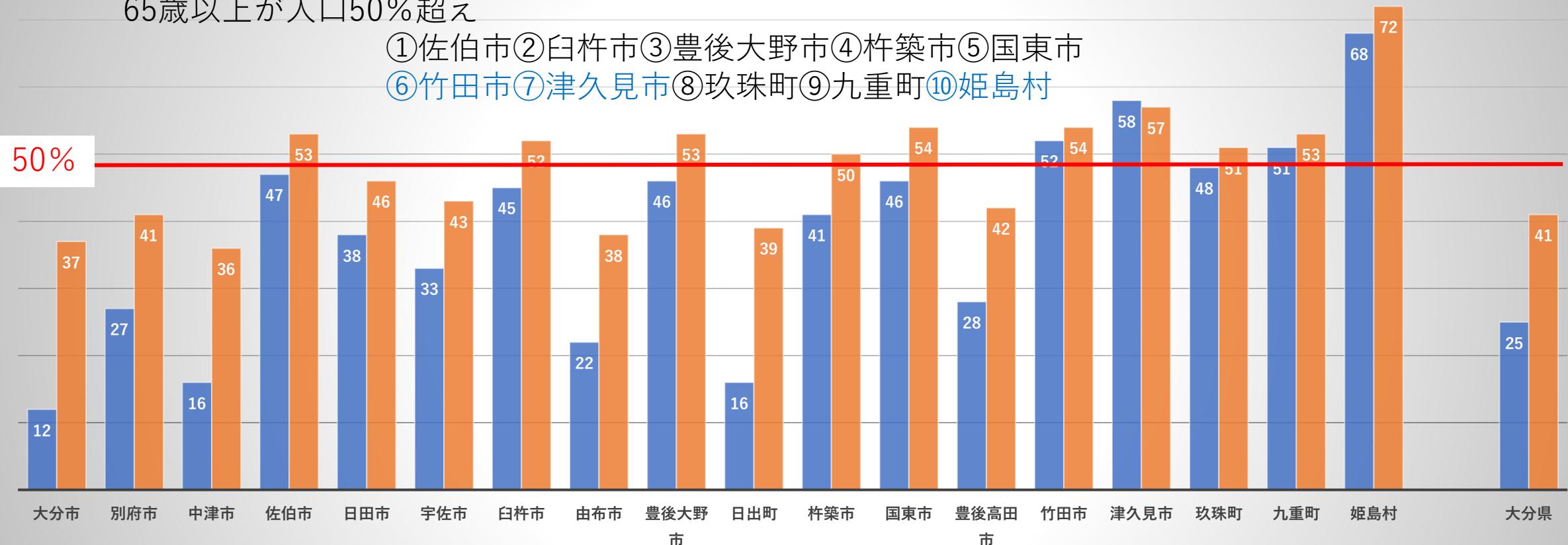
大分県市町村別 人口減少率(2023~2050年)と2050年の65歳以上人口割合(%)

人口が半減 ①竹田市②津久見市③姫島村

65歳以上が人口50%超え

①佐伯市②臼杵市③豊後大野市④杵築市⑤国東市

⑥竹田市⑦津久見市⑧玖珠町⑨九重町⑩姫島村



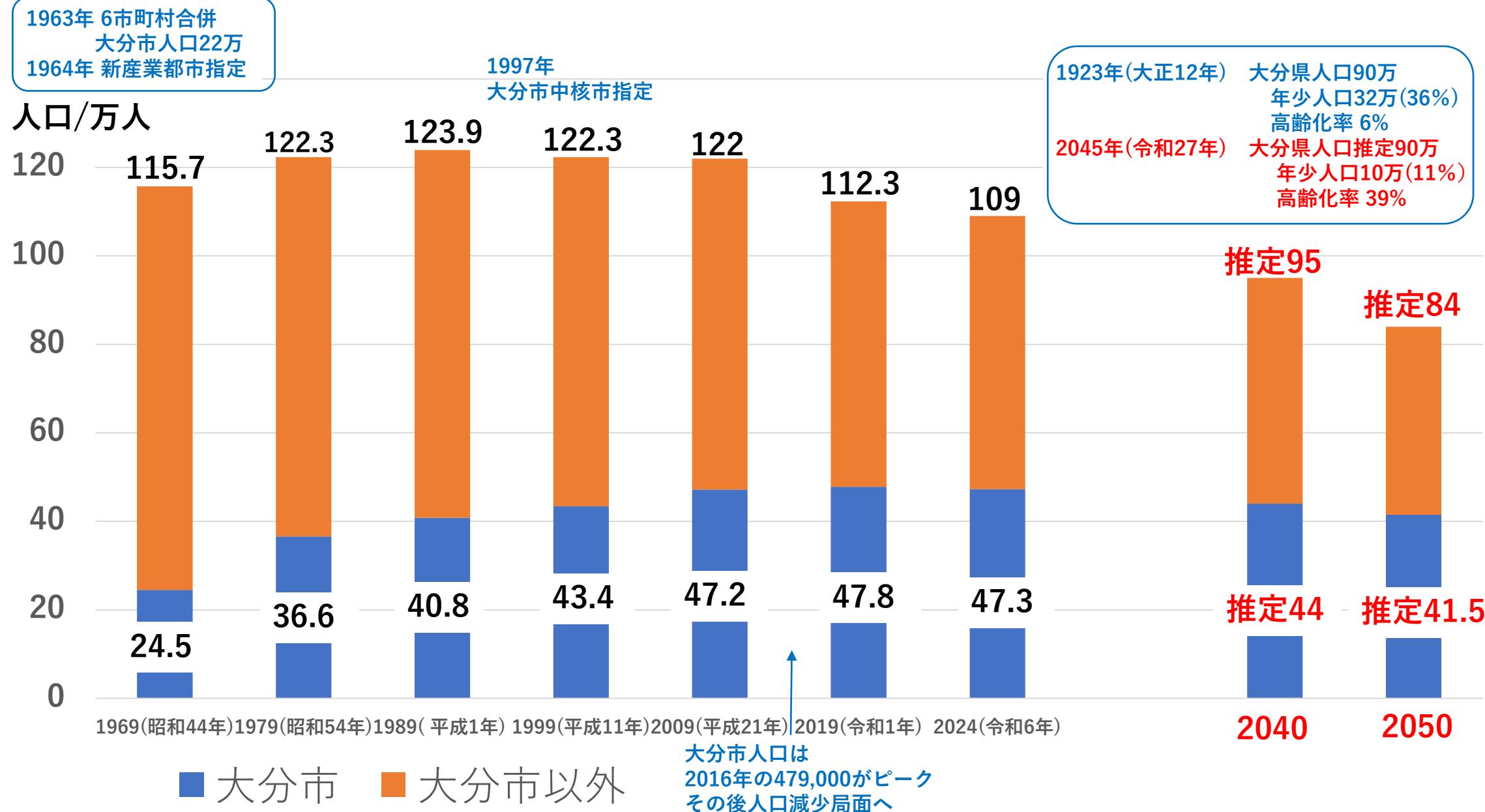
■ 人口減少率(%)

■ 65歳以上人口割合(%)

石和作図

大分県・大分市の人団推移

大分県人口ビジョン・2020年



2050年 大分県人口予想

- ・**人口減少が進展**

県内全ての市町村で人口減少が進展

大分県人口：109万人→85 万人へ（減少率25%）

大分市人口： 47万人→41.5万人へ（減少率12.5%）

地域差があり、人口減少のスピードは大分市は緩徐、県南・豊肥地域は加速

- ・**高齢化が進展し、老年人口(65歳以上)の増加は大分市・日出町のみ**

高齢化：県内全ての市町村で高齢化が進展(36~72%)し、

大分県高齢化率：約40%

大分市高齢化率：約36%

老年人口：大分市・日出町は今後も増加、他の市町村は減少

- ・**生産年齢人口(15歳から64歳)・年少人口(15歳未満)ともに減少**

生産性人口：2022年の約60万人から約48万人へ減少（減少率25%）

年少人口：2022年の約13万人から約9.6万人へ減少（減少率26%）

4. 県民の声 (全高校生オンラインアンケートの結果)

新しいおおいた共創会議資料(2024)

調査概要

全生徒への実施は初めて

- (1) 対象: 県立・私立高校に在学する全生徒 (2) 期間: R5.8.22~9.25
(3) 方法: 1人1台端末からオンラインで実施
(4) 設問: 全10問(大分県への愛着、県内への定着意識など) (5) 回答: 21,304名(回答率74.3%)



実際にアンケートに
答えている様子

①大分県への愛着

Q 大分県のことが好きですか

- ◆「好き」が46.7%と最も多く、次いで「どちらかといえば好き」が37.6%と多い
- ◆「好き」「どちらかといえば好き」を合わせると、84.3%が**大分県に愛着**を持っている

②大分県への定着意識

Q 将来、大分県に住み続けたいと思いますか。

- ◆「県外に一度出たいが、**将来的には大分県に戻って住み続けたい**」が31.2%と最も多い
- ◆次いで、「分からない」 30.4%
「大分県に住み続けたくない」 22.7%
「このまま大分県に住み続けたい」 15.7%と続く

③将来的には大分県に住みたい理由

Q 将来的には大分県に戻って住み続けたいと思う理由は何ですか

- ◆「**海・山など自然環境が豊か**」が51.2%と最も多い
- ◆次いで、「人間関係・家族関係が充実」 37.6%
「温泉が身近」 37.2%
「食べ物が新鮮で美味しい」 30.5%
「住環境が快適」 24.8%と続く

④大分県に住み続けたくない理由

Q 大分県に住み続けたくないと思う理由は何ですか

- ◆「**都会に憧れがある**」(56.3%)が最も多い
- ◆次いで、「**県外で一人暮らしをしたい**」 49.2%
「レジャー・娯楽が充実していない」 39.9%
「公共交通機関が不便」 35.4%
「買い物が不便」 31.3%と続く

⑤就職したい業種

Q 将来、就職したいと思う業種は何ですか

- ◆「**医療・福祉関係**」(23.1%)が最も多い
- ◆次いで、「未定」 22.5%
「公務員」 20.9%
「教育関係」 13.9%
「その他」 11.9%と続く

⑥大分県に力を入れてほしいこと

Q 今後、大分県に力を入れて欲しいことは何ですか

- ◆「**こども・子育て支援**」(55.1%)が最も多い
- ◆次いで、「医療・健康づくり」 24.5%
「観光の振興」 22.9%
「犯罪・交通事故防止」 21.5%
「安全・安心(食、消費者等)」 20.0%
「交通網の充実」 19.0%と続く

4. 県民の声 (県民意識調査の結果) 概要

調査概要

- (1) 対象：大分県内に居住する満18歳以上の方 (2) 期間：R5.7.31～8.24
 (3) 方法：選挙人名簿から5,000人を無作為抽出し、調査票を郵送 ※回答はオンラインも可
 (4) 設問：全19問（現在の暮らしやすさ、大分県に期待する行政分野など）
 (5) 回答：2,696名（回答率53.9%）※本調査の標本誤差は約1.9%であり、公的統計の目安とされる3%以下となっていることから有意である

①暮らしやすさ

Q 大分県は暮らしやすい県だと思いますか

- ◆「暮らしやすい」(25.2%)、
「どちらかといえば暮らしやすい」(31.2%)
を合わせると、**56.4%**が暮らしやすいと回答
- ◆前回調査(H25)では**60.6%**が暮らしやすい
と回答 「暮らしやすい」(30.2%)
「どちらかといえば暮らしやすい」(30.4%)

②暮らしやすさの判断要素

Q 「暮らしやすさ」を考えるうえで、 大切なことはどのようなことですか

- ◆「健康維持と医療機関の利用しやすさ」**
(42.5%)が最も多い
- ◆次いで、「海・山などの豊かな自然環境」 41.5%
「買い物の便利さ」 37.1%
「新鮮で美味しい食べ物」 36.7% と続く

③生活の満足度

Q 現在、生活にどの程度満足していますか (0点～10点を選択)

- ◆全体の**平均点は6.05点**
- ◆「5点」24.1%が最も多く、「7点」21.5%
「6点」15.0%と続く
- ◆国調査(R5)では**平均5.79点**
- ◆前回調査では県平均**6.6点**(H25)、国平均
6.4点(H24) ※前回は幸福感を尋ねた結果

④満足度の判断要素

Q 生活全体の満足度を判断する際に、 重視したのはどのようなことですか

- ◆「健康状態」**(51.7%)が最も多い
- ◆次いで、「家計と資産」 37.4%
「身の周りの安全」 29.3%
「仕事と生活(ワーカイフランス)」 23.5% と続く

⑤今後の大分県に期待する行政分野

Q 10年後を見据えて、今後、大分県に期待 する行政分野はどのようなことですか

(24項目の中から5つまで選択可)

- ◆「高齢者福祉の充実」** 56.5% (39.7%) ↗
が最も多い ※括弧内はH25調査結果

- ◆次いで、「医療・健康づくり」 47.0% (49.1%) ↗
「子ども・子育て支援」 34.7% (21.6%) ↗
「交通網の充実」 34.5% (34.8%) ↗
と続く

- ◆その他大きく増加した項目
「防災・減災対策」 29.0% (16.5%) ↗
「環境対策」 26.4% (16.5%) ↗
「女性の活躍推進」 6.1% (1.6%) ↗
「デジタル化の推進」 5.6% (1.6%) ↗

- ◆減少した項目
「移住・定住の促進」 10.4% (28.2%) ↘
「観光の振興」 7.8% (11.2%) ↘

大分市医師会立アルメイダ病院

Almeida Memorial Hospital

「人間愛の精神」に基づいた高度な医療を提供することにより地域社会へ貢献します





一般社団法人
大分市医師会

(一社)大分市医師会 事業部門

大分市医師会立アルメイダ病院（検査センター）

アルメイダ訪問看護ステーション（機能強化型加算Ⅰ）
介護保険支援センターアルメイダ
植田東地域包括支援センター

大分市医師会立大分準看護専門学院
大分市医師会立看護専門学校

隣接地に開設(大分市医師会長が理事長を兼任)

* (福)特別養護老人ホーム アルメイダメモリアルホーム

* (公財)おおいた健診センター

1880年(明治13年)
大分県立病院開院

1952年(昭和27年)
大分赤十字病院開院

1981年(昭和56年)
大分医科大学
附属病院開院

アルメイダ病院の半世紀の歩み

1969年
旧病院開院

病床数 100床

診療科 内科

2008年
新病院竣工

2008年
地域周産期母子センター

2016
地域包括ケア病棟



EMT課

1978年
救命救急センター

310床

377床

1998年
地域医療支援病院

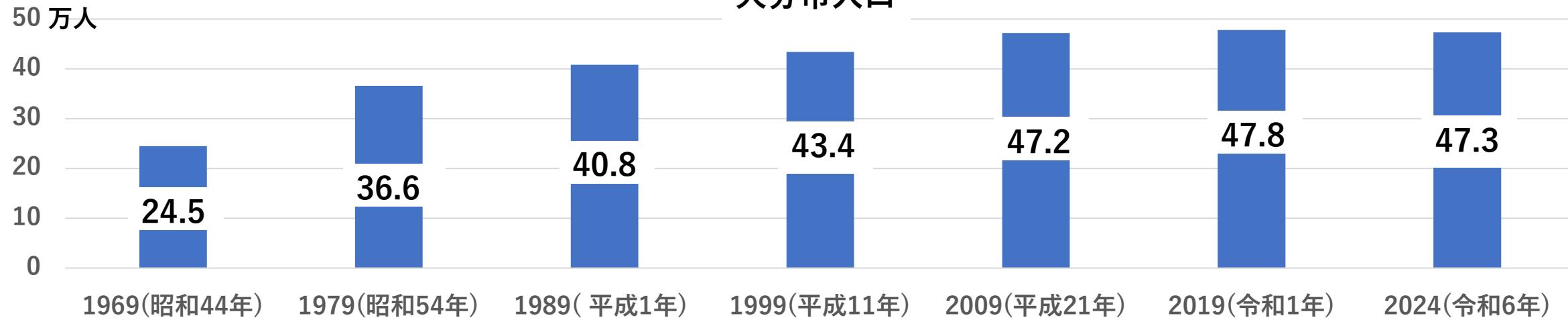
385床

2009年
DPC対象病院
2012年
緩和ケア病棟

406床

23診療科

大分市人口





一般社団法人

大分市医師会

大分市医師会立アルメイダ病院

標榜診療科23科

病床数406床 (ICU 地域包括ケア病床 緩和ケア病床)

3次救命救急センター

地域医療支援病院

大分県がん診療連携協力病院

災害拠点病院

臨床研修指定病院

*地域周産期母子医療センター：閉鎖

*新型コロナウイルス感染症重点医療機関：閉鎖

令和5年度

新規入院患者数； 7,587人

外来患者数 ； 41,902人

救急車搬入 ； 2,277件(応需率86%)

常勤職員数：693名 (嘱託66名、パート21名)

常勤医師：67名 (非常勤医師:63名)

看護師：325名

准看護師：20名

救命救急士：7名

介護福祉士：25名

看護助手：3名

薬剤師：30名

臨床検査技師：58名

放射線科技師：18名

理学療法士：23名

管理栄養士：7名

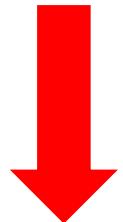
社会福祉士：9名

事務:57名

委託・派遣職員：161名

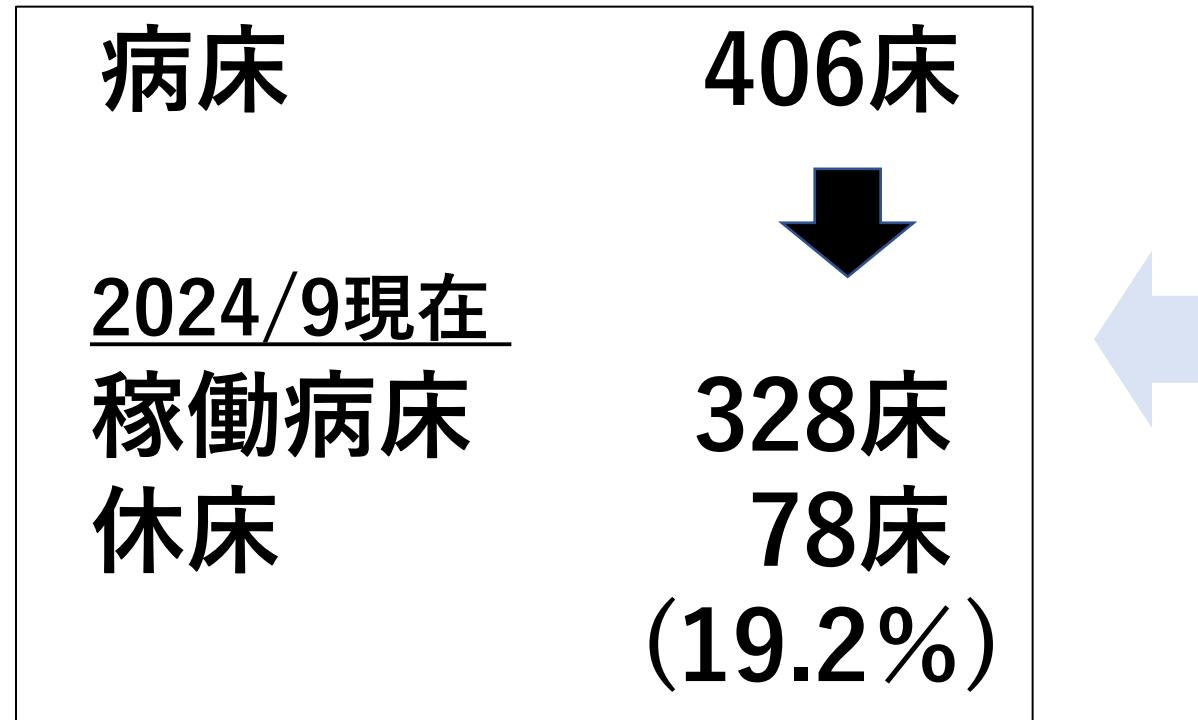
(令和6年4月現在)

コロナ禍前後から
看護職の離職が増加し
看護職の新たな採用も困難となり
シフトが組めず、
稼働病床を減らさざるをえない
状況となつた



負のスパイラルへ

アルメイダ病院 稼働病床数の推移



アルメイダ病院 看護職員数の推移

地域周産期母子医療センター閉鎖
新型コロナウイルス感染症病棟開設

病棟再編

年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
病床数	406				399		375	371		339	328
看護職数	415	408	400	412	394	393	374	384	397	385	353
増減		-7	-8	12	-18	-1	-19	10	13	-12	-32
採用 (新規・中途)	33	34	50	28	37	35	42	51	32	23	(17)
離職	40	42	38	46	38	54	32	38	44	55	
離職率(%)	9.6	10.3	9.5	11.2	9.6	13.7	8.6	10.0	11.1	14.3	

2014～2023：採用者数365名・離職者数427名→62名減

アルメイダ病院 2022年度看護職離職者44名内訳

退職時年齢

	20代	30代	40代	50代	60以上
外来	1		1		1(74歳)
救急病棟	3	3	1		
ICU			1		
手術室	4	2			
3東	3		1		
4東	1	1			
4西					
5東	3	2	1		1
5西	3				
6東	1	1		1	
6西			1		
7	2				
緩和ケア					
看護部長付	1	2			1
医療連携室				1	
合計	22	11	6	1	4

勤務年数

1年未満	1～3年	3～5年	5～10年	10年以上	定年退職
2					1
1	1	2	1	2	
	1				
2	2	1	1		
	1	2			1
	1		1		
2	2	2			1
2		1			
	2				
				1	
				1	
2					
	1	1	1	1	1
					1
7	13	10	4	6	4

アルメイダ病院 看護職員の離職理由

期間：2021年3月～2024年3月
対象：退職届を提出した看護職111名
方法：**顧問弁護士**による個別面談



報告書 ②

私がアルメイダ病院で気になっていることは、大きくまとめると5つあります。なお、私の所属はICUです。

①男性の育児休暇の取得について

病院の目標として、男性の育児休暇の取得率向上を掲げています。しかし、実際に育児休暇を取得しようとするとハードルが高いです。目標として掲げられてはいますが、病院としての具体的な取り組みがありません。外部にアピールするための目標なのではと感じてしまいます。

現在、部署の中の若い人で、結婚を考えている人がいますが、部署長がその人に対し、「結婚の時期を考えなさい」と伝えています。結婚は、本人のタイミングで決めることが多いのに、部署長がそのようなことを伝えるのは、モラハラやマタハラなのではないかと思います。

自己都合 : 59名 (53%)
結婚・妊娠、転居、キャリアアップ等
定年 : 2名

病院への不満

看護部 : 11名 (10%)
職場環境 : 34名 (31%)

パワーハラスメント

医師から : 2名
看護職から : 2名
給与(手当) : 1名

50名
(45%)

アルメイダ病院 看護職員の離職防止対策

- | | |
|---------|---|
| 仕事量の軽減 | 1. 他職種(救急救命士・薬剤師・臨床工学士・介護福祉士・看護助手・病棟事務等)とのタスク・シフト/シェアを推進
2. 三交代制勤務に加えて二交代制勤務を導入
3. 残業時間軽減のためのユニフォーム2色制を導入 |
| 福利厚生 | 1. 院内保育 (夜間保育・病児保育・学童保育は検討中)
2. 宿舎の貸与 |
| 給与 | 1. ベースアップ加算を支給
2. 資格手当を支給 |
| キャリア支援 | 1. 看護部に教育企画室を設置し、専任の教育責任者を配置
2. 研修会参加費用の支給
3. 認定看護師等の資格取得を支援(授業料全額・給与を支給) |
| 職場環境の改善 | 1. 全看護職を対象としたアンケート調査の実施
2. ハラスメント対策研修会の開催
3. ストレスチェックの実施
4. 定年延長(65歳)を予定 |

大分県 看護人材の状況

大分県内の看護師養成機関

看護系大学 2校

看護師学校 11校

準看護師学校 6校

総定員数 939人 (准看護師過程194人)

令和4年度卒業生の県内就職率69.9% (全国平均75.1%)

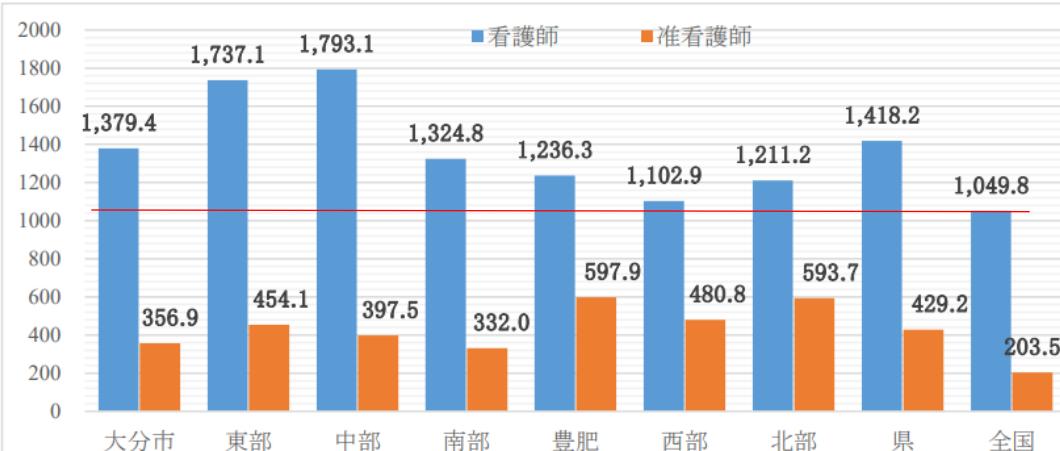
令和4年末の大分県内就業看護師：15,700人

準看護師： 4,751人

(過去10年間に1,500人増加)

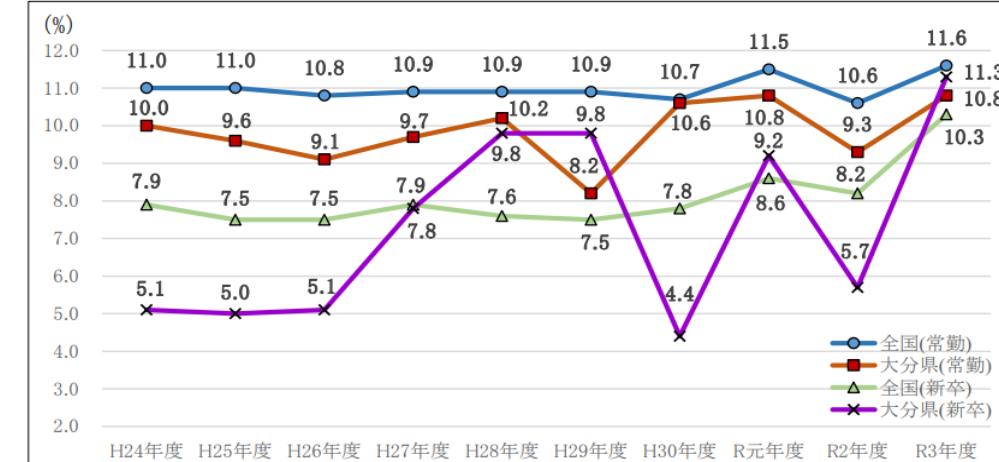
人口10万あたりの看護職数： 1,418人 (全国平均1,050人)

◇令和4年末圏域別看護師・准看護師数 (人口 10万対)



資料：厚生労働省「衛生行政報告例（看護職員等業務従事者届）」

◇常勤看護職員離職率の推移



資料：日本看護協会「病院看護実態調査」

アルメイダ病院 看護職人材確保

看護学生

看護師養成機関の運営

大分市医師会立看護専門学校（定員50名）

大分準看護専門学院（定員80名）

実習の受け入れ（5校、2023年度450名）

看護師養成機関へ講師派遣（3校）

看護師養成機関（看護系大学2校、看護専門学校7校）を訪問、斡旋依頼

就職情報サイト（マイナビ看護学生）へ登録

就職フェア（大分県・大分県看護協会）へ参加

病院見学（10回/年）の受け入れ

奨学金返金支援制度（日本学生支援機構・代理返還）の導入

アルメイダ病院看護部の課題

看護職の離職者は
年齢は20～30歳代で
勤務年数5年以内が
約70%を占めていた

看護職の離職理由のヒアリングでは
自己都合が53%と最も多く
次に職場環境への不満が45%で
パワーハラスメントがうたがわれるケースも少数みられた



魅力ある職場環境づくりを更にすすめ、
選ばれる病院へ変容する、ことが求められている

大分市医師会立アルメイダ病院で
今後いかに“治し支える医療“を展開するか

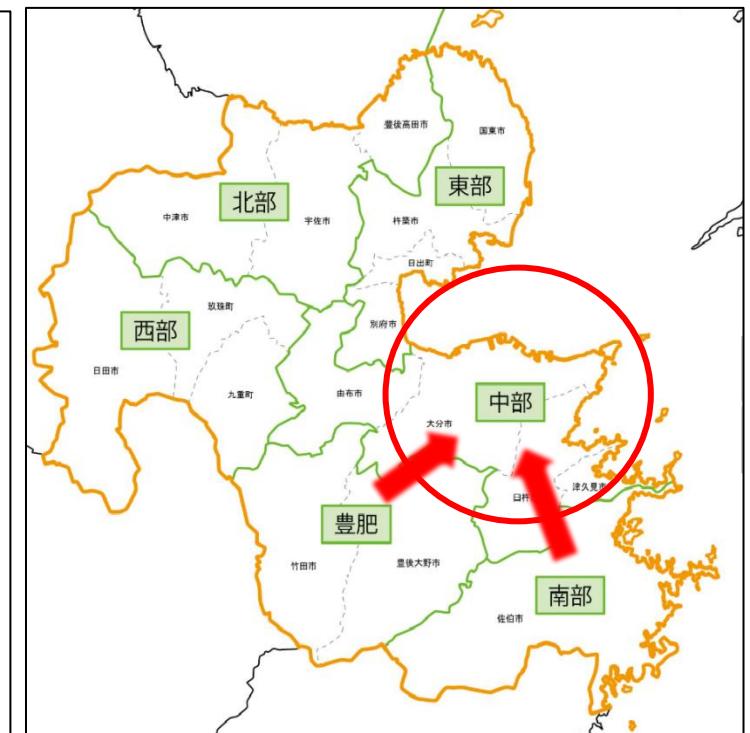
大分県二次医療圏 2022年人口

◇二次医療圏

二次医療圏名	構成市町村	人口（人）	面積（km ² ）
東部医療圏	別府市、杵築市、国東市、姫島村、日出町	195,330	803.77
中部医療圏	大分市、臼杵市、津久見市、由布市	556,582	1,192.39
南部医療圏	佐伯市	64,463	903.14
豊肥医療圏	竹田市、豊後大野市	51,847	1,080.67
西部医療圏	日田市、九重町、玖珠町	82,784	1,224.00
北部医療圏	中津市、豊後高田市、宇佐市	155,295	1,136.73
計（6圏域）	14市3町1村	1,106,301	6,340.70

人口は令和4年10月1日現在、面積は令和5年7月1日現在

資料：大分県「毎月流動人口調査」、国土交通省国土地理院調査「全国都道府県市区町村別面積調」



大分県医師会 郡市別A①会員数

2024年4月1日現在

大分市	208 (25%)	速見杵築	29
大分都市	155 (18%)	臼杵市	26
別府市	105	豊後大野市	25
中津市	55	竹田市	18
日田市	51	国東市	17
佐伯市	41	玖珠郡	16
宇佐市	39	津久見市	12
大分東	33 (4%)	豊後高田市	12

合計 842

大分県二次医療圏 2050年の人口と減少率

◇二次医療圏	構成市町村	2022年	2050年	減少率
東部医療圏	別府市、杵築市、国東市、姫島村、日出町	195,330	138,327	29%
中部医療圏	大分市、臼杵市、津久見市、由布市	556,582	468,059	16%
南部医療圏	佐伯市	64,463	35,779	44%
豊肥医療圏	竹田市、豊後大野市	51,847	27,792	46%
西部医療圏	日田市、九重町、玖珠町	82,784	50,513	39%
北部医療圏	中津市、豊後高田市、宇佐市	155,295	120,873	22%
計（6圏域）	14市3町1村	1,106,301	841,343	24%

二次医療圏設定の議論は各自治体が「地域完結型医療」をどのように定義づけし、実践していくかを明確にすることに他ならない（日医総研）

令和5年度病床機能報告結果(大分県医療政策課)

病床機能ごとの病床数の推移(県全体)

- 2023年と2015年の病床数を比べると、全体として**512床減少**した。
- 病床機能ごとに比べると高度急性期が**131床減少**、急性期が**1,414床減少**、回復期が**1,002床増加**、慢性期が**569床減少**した。
- 2025年見込の急性期の病床数は**8,025床**であり、大分県地域医療構想における**2025年の必要病床数**と比べ**3,117床超過**している。一方で、回復期は**1,667床不足**しており、急性期等からの転換を進める必要がある。

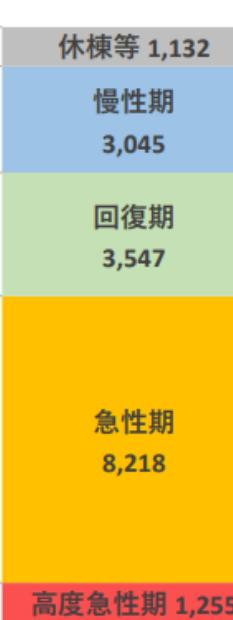
【2015年度病床機能報告】

2015年
合計17,709床



【2023年度病床機能報告】

2023年
合計17,197床



【 大分県地域医療構想における
2025年の必要病床数

2025年見込(※1)
合計16,593床

合計14,649床



令和5年度病床機能報告結果(大分県医療政策課)

病床機能ごとの病床数の推移(中部)

- 2023年と2015年の病床数を比べると、全体として**74床増加**した。
- 病床機能ごとに比べると、高度急性期が**74床増**、急性期が**521床減**、回復期が**409床増**、慢性期が**35床減**した。
- 2025年見込の急性期の病床数は**3,675床**であり、大分県地域医療構想における2025年の必要病床数と比べ**1,130床超過**している。一方で、回復期は**972床不足**、慢性期は**286床不足**しており、急性期等からの転換を進める必要がある。

【2015年度病床機能報告】

2015年
合計7,570床

休棟等 219
慢性期 1,193
回復期 1,063
急性期 4,272
高度急性期 823

【2023年度病床機能報告】

2023年
合計7,644床

休棟等 366
慢性期 1,158
回復期 1,472
急性期 3,751
高度急性期 897

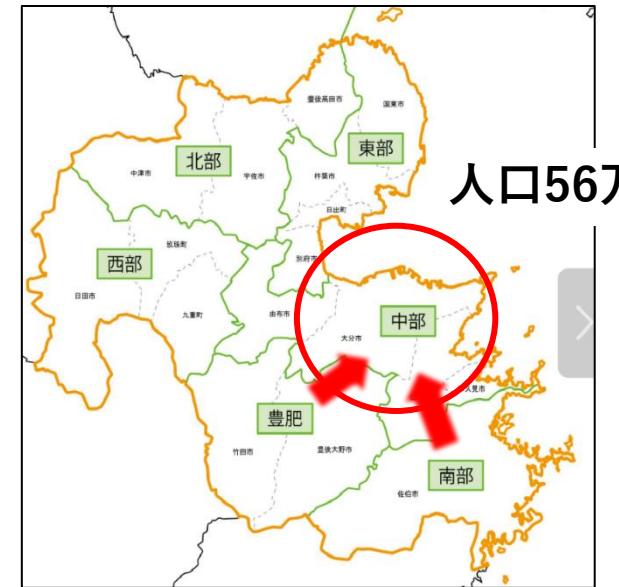
【大分県地域医療構想における】
2025年の必要病床数

2025年見込 (※1)
合計7,512床

慢性期 1,463
回復期 2,571
急性期 2,545
高度急性期 759

286床不足
972床不足
1,130床超過
85床超過

※1：2023年度病床機能報告において、「2025年7月1日時点における病床の機能の予定」として報告された病床数
※2：対象医療機関数及び報告率が異なることから、年度間比較を行う際は留意が必要



大分県中部医療圏

2023年病床機能報告							
	施設数	病床数	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟
病院	50	6108	897	3027	1213	942	29
診療所	101	7644	—	724	259	216	337
合計		13752	897	3751	1472	1158	366
大分県地域医療構想2025年 必要病床数			759	2545	2571	1463	
大分県地域医療構想2025年 必要病床数との差			138超過	1206超過	1099不足	305不足	

大分県中部医療圏

急性期100床以上の病院

	2023年病床機能報告	高度急性期	急性期	回復期	総病床数
1	大分大学医学部附属病院	588			588
2	大分県立病院	117	392		509
3	大分赤十字病院	151	189		340
4	大分医療センター		225	60	285
5	アルメイダ病院	21	364		406
6	大分岡病院	6	197	大分リハビリテーション病院 120	203
7	大分中村病院	8	128	110	260
8	大分三愛メディカルセンター	6	112	72	190
	合計	897	1607	362	2781

中部医療圏(大分市近郊)急性期病院(100床以上)



2024年度中部医療圏 基幹病院の体制と実績

	開院	病床数	診療科	医師数	看護師数	1日あたりの入院患者	1日あたりの外来患者数	救急車搬入件数	診療報酬加算
大分大学医学部附属病院	1981年 (昭和56年)	618	34	—	736	479	1016	1,847	特定機能病院入院基本料
大分県立病院	1880年 (明治13年)	557	34	154	607	421	817	2,639	急性期充実加算1
大分赤十字病院	1952年 (昭和27年)	340	28	67	324	251	393	1,397	総合入院体制加算3
アルメイダ病院	1969年 (昭和44年)	406	23	67	345	281	135	2,261	総合入院体制加算3

令和4・5年度 日本医師会 医師会共同利用施設検討委員会報告書

医師会病院の運営においては、地域に不足している医療を把握し、可能な限り地域住民に必要な医療提供体制を維持できるよう、以下の具体的役割が期待される

1. 高度急性期病院の後方支援

地域包括医療病棟、**地域包括ケア病棟**
回復期リハビリテーション病棟、
緩和ケア病棟等

2. 在宅医療の後方支援

急変時の受入れ、レスパイト入院等

3. 初期救急の支援

夜間・休日急患センター等

4. へき地医療の支援

5. 災害医療・新興感染症等有事の対応

現在のアルメイダ病院の医療資源

1 高度急性期・急性期中心の医療

三次救命救急センター(ICU6床、救急病棟15床)

地域包括ケア病棟44床、緩和ケア病棟21床

救急・集中治療科、麻酔科、外科、心臓外科、脳外科、呼吸器外科、整形外科・スポーツ外科、リハビリテーション科、泌尿器科、婦人科、形成外科、皮膚科、**総合診療科**、消化器内科、内分泌内科、血液内科、腎臓内科、小児科、**精神科**、**緩和ケア内科**、病理

2 訪問看護ステーション(機能強化型加算Ⅰ)

3 介護保険支援センター



今後の“治し支える医療”的展開

土日リハビリテーションの導入

訪問看護ステーションの拡充と

地域包括ケア病棟・緩和ケア病棟との連携推進

看護師特定行為研修の推進

在宅医療支援部(総合診療科)開設

急変時の受入れ、レスパイト入院

地域包括医療病棟の検討